



主な内容

萩・世界遺産ビジターセンター学び舎 オープン	P2
明治日本の産業革命遺産と萩 構成資産(2) 松下村塾	P4
ズームアップ 下関市立大学長 吉津直樹(下関市)	P6
夢追人 レストランまつおか 松岡洋祐(萩市)	P7
懐かしい味 Sweets うきしま工房 古川毅(萩市)	P8

萩市のJR東萩駅前の道路を南に少し進むと、ちょうど松本川が見えてくる川岸に4基の石碑が立っています。これは江戸時代、病の母の快癒を願った百度参りの中、命を落とした2人の兄弟、「香川津二孝子」を顕彰するものです。松本川の川岸を見つめるかのように立っている石碑は、私たちに親子の愛、兄弟の愛の大切さを、静かに語りかけてくれるかのようにです(詳しくは9ページ参照)。

第127号 2016年1月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市役所広報課内

TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458

萩市ホームページ <http://www.city.hagi.lg.jp/>

親孝行の兄弟の物語を後世に

香川津二孝子没後二百年





萩・世界遺産ビジターセンター 学び舎 まなびーや

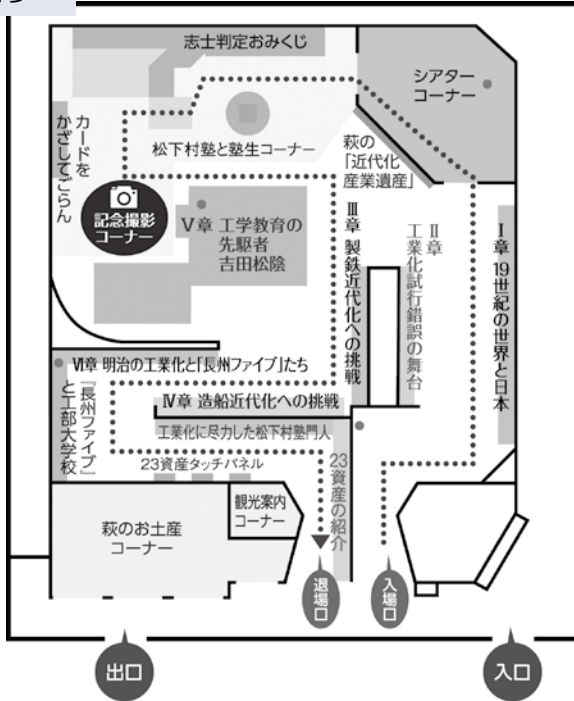
1/30
オープン

■展示構成

- ▽ 19世紀中期の世界と日本
- ▽ 工業化試行錯誤の舞台／萩城下町
- ▽ 製鉄近代化への挑戦／萩反射炉
- ▽ 造船近代化への挑戦／恵美須ヶ鼻造船所跡・大板山たたら製鉄遺跡
- ▽ 工学教育の先駆者吉田松陰／松下村塾
- ▽ 明治の工業化と「長州ファイブ」たち

19世紀末の世界史の奇跡といわれる
日本近代化の原点 萩をPR!

見どころマップ



「明治維新の原点・萩ー日本近代化の軌跡ー」を150インチの大型スクリーンで上映

平成27年7月「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼・造船・石炭産業」が世界文化遺産に登録されました。これは、シリアル・ミネーションという、8県11市23資産という広域にわたる資産を一つのテーマのもとに束ねて登録されたもので、萩市には、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾の5つの資産があります。



松陰が工学教育の重要性を説いた講義をアニメ映像で楽しめます



産業革命の波がどのように日本に導入されたかを紹介

1月30日に、大河ドラマ館の跡に開館する、「萩・世界遺産ビジターセンター学び舎」は、「明治日本の産業革命遺産」の中でも近代化の原点といわれる萩の5資産の位置づけや、吉田松陰がわが国の工学教育に果たした役割、23資産全体の紹介などを、大型スクリーンによる映像や講義風景を再現したアニメーション、展示パネルなどにより、わかりやすく楽しく学べる施設です。

※団体料金は20人以上。
※学校行事（団体）で入館の場合は事前申請により無料。
※身体障がい者手帳等を所持されている人は2割引（介助者1人無料）。
※1月29日まで、萩市観光協会萩市企画政策課（平日のみ）で、大人の入場券が2000円で販売。
【萩・明倫センター駐車場】
▽駐車台数 普通車約180台
大型バス10台、おもいやり駐車場
▽駐車料金 普通車310円、大型バス1030円（いずれも1回）
■問い合わせ 萩市企画政策課 内萩市世界遺産活用推進協議会（08388・253117 平日のみ）、萩市観光協会（08388・251750）

新山口駅と萩の直行バス スーパーストパーはぎ号 継続運行

大河ドラマ館の開館期間中の限定で運行しているJR新山口駅と萩明倫センター（大河ドラマ館前）を結ぶ直行バス「スーパーストパーはぎ号」を、閉館後の1月11日以降も継続して運行します。

スーパーストパーはぎ号は、中国自動車道と小郡萩道路を通るルートで、所要時間は60分で、運行時刻は変更ありません。

■運賃 片道大人1030円（小児520円）

■時刻表

新山口 → 萩		
	出発	到着
JR	9:45	10:45
防長	11:00	12:00
JR	13:00	14:00
防長	16:15	17:15
萩 → 新山口		
	出発	到着
防長	9:30	10:30
JR	11:15	12:15
防長	14:00	15:00
JR	16:30	17:30

※平成28年3月31日までは、大人2060円、小児1030円のところ、運賃の半額が助成されます。
■問い合わせ
防長交通(株)萩営業所（08388・223816）、中国ジェイアールバス(株)（0839222519）

★学び舎の大人入場券をペア3組にプレゼント（応募方法は15ページ）

萩焼が食卓を彩ります！

1月31日(日)～2月8日(月) 東京ドーム

国内特集は萩陶芸家協会が出展

萩焼 ～伝統と革新の志～



昨年のテーブルウェア・フェスティバル

1月31日から2月8日まで、おもてなしの食空間を提案する「テーブルウェア・フェスティバル2016 暮らしを彩る器展」が東京ドームで開催。今年も、国内特集に「萩焼」が選ばれ、メインブースでの展示で、萩焼の新しい食卓を提案します。萩陶芸家協会による出展は平成14年以来、2回目です。

国内特集のテーマは「萩焼」
「伝統と革新の志」

おだやかな釉薬の色合いと手取りの良さを特徴とし、古くから多くの茶人に愛されてきた萩焼。そして、先人たちのエネルギーを受け継ぎながらも、作家独自の作風で新しい風を吹き込んだモダンな萩焼。独創的で感性豊かな作家が、一つひとつ心を込めて作った逸品とその志をご鑑賞ください。

▼出展作家（萩陶芸家協会加盟作家、20人）内村幹雄、岡田泰、岡田裕、小川浩延、小田光治、金子愛、金子司、金子信彦、兼田知明、川口裕子、厚東孝明、坂倉善右衛門、田中講平、玉村信一、中島大輔、野坂和左、樋口大桂、船崎透、松尾優子、間鍋竹士（五十音順）

関連イベント等

■萩陶芸家協会会長 十二代三輪休雪の講演
▽2月1日（月）午後1時～（約

30分）、▽アリーナスタジオ（東京ドーム内の中央付近）、▽タイトル「陶芸の浪漫」、▽先着約200人

十二代三輪休雪の作品展示

国内特集コーナーの入口に展示

萩焼の販売

国内特集の展示作品などの萩焼を購入できます（萩陶芸家協会の販売ブースナンバ78）

▽会期 1月31日（日）～2月8日（月）午前10時～午後7時（初日のみ午前11時～）

▽会場 東京ドーム（J-RR水道橋駅、都営地下鉄川水道橋駅・春日駅、東京メトロ丸の内線後楽園駅下車）

▽入場料 当日券2100円、前売券1800円

▽主催 テーブルウェア・フェスティバル実行委員会（読売新聞社東京ドーム）

▽問い合わせ 萩市商工振興課内萩陶芸家協会（0838・253・3638）、東京ドームシティわくわくダイヤル（03・5800・9999）

★ネットワーカー会員への特典

同封のハガキを会場にご持参の場合、1700円で入場できます★萩陶芸家協会から無料入場券を3人にプレゼントします（1月15日必着、応募方法は15ページ）



新年のごあいさつ

萩ネットワーカー協会会長

萩市長 野村興兒

旧年は大河ドラマ「花燃ゆ」、世界文化遺産の登録が続き、萩市は大いに盛り上がり、忘れ難い一年となりました。

また、合併後、新市の最大の試練となった萩市東部の豪雨災害から2年5カ月が経過し、県管理の河川の改修工事等は残るもの、市の行つて復旧工事はほぼ完了しつつあります。皆様温かいご支援ご協力に感謝申し上げます。

大河ドラマ、世界文化遺産を受け継ぎ、学ぶ観光の推進を

「花燃ゆ」は、萩市に住んでいる私たちに對しても、幕末から明治にかけての苦難の時代を切り開いていった若き先達について、しっかりと学ぶ機会を与えてくれました。

東西・南北の自動車道の整備

陸の孤島と揶揄されてきた萩地域ですが、山陰道（東西）および「小郡萩道路」（南北）の両道路が、多くの皆様の力強い支援により、時を同じくして、いよいよ整備が始まります。

産が産業革命遺産として位置づけられた経緯や歴史的背景等を分かりやすく、しかも楽しく理解できる「萩・世界遺産ビジターセンター」を1月30日に開設します。

昭和10年に建築された旧明倫小学校は、本館と第2棟が修復整備中ですが、来春には完了する見込みで、残る2棟も引き続き修復整備を計画しています。藩校明倫館、世界文化遺産、幕末の貴重な小川コレクション等の展示に加え、昭和の教室の原風景をいかした多彩な活用を検討しており、明治維新150年の記念事業として取り組んでまいります。

末尾になりましたが、本年の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

5つの資産の整備とともに、各資産の近代化の礎を築いていく「萩物語」として、しっかりと学び誇りをもちて伝承していくことは私たちが世代の務めではないでしょうか。世界文化遺産に登録された萩の5つの資産の整備とともに、各資産

明治日本の産業革命遺産と萩

構成資産の紹介(2) 松下村塾

道垣書吾(萩博物館主任学芸員)

構成資産としての価値

松下村塾が「明治日本の産業革命遺産」の構成資産に加えられたことに対して、違和感を持つ人が多い。その一番の理由は、松下村塾が工場の機能を有したわけではないからであろうと思われる。また、これまでの松下村塾の見方は、幕末維新の変革および明治国家の建設に活躍した志士や政治家を輩出したことに集中しているため、

産業あるいは工業とのつながりがなかなかピンとこないのではないだろうか。このように、松下村塾は政治的な側面で見られがちであるため、「産業革命遺産」の構成資産といった場合、違和感があるという意見が出て何ら不思議なことではない。

松下村塾の塾舎

松陰の主宰した松下村塾

松下村塾は、吉田松陰の叔父玉本文之進が天保13年(1842)

に創始した私塾である。やがてその塾名は、同じ松本村に居住していた松陰の親類久保五郎左衛門に引き継がれる。しかかつて松陰は、玉木・久保に次ぐ三代目の松下村塾主宰者ということになる。

松陰は元来、長州藩(萩藩)の藩校明倫館の山鹿流兵学者であった。松陰は兵学者という立場から、日本の独立を維持するため、海防の強化を中心的な課題とし、鎖国という条件に置かれながらも、海外の事情や西洋の知識などを意欲的に学んだ。特に、箕作省吾が著した『坤輿図説』や清(中国)の魏源が著した『海国図志』などの世界地理・歴史書を通じ、外国事情を熱心に研究していた。松陰はまた、儒学、倫理、日本・中国・西洋の歴史および地理、医学、算術、農学、経済など、幅広い知識を修得した。

松陰は長州藩の遊学制度を有効に活用して、まず、嘉永3年(1850)に九州へ遊学した。長崎では高島浅五郎(秋帆の子)のもとで洋式砲術について学んだ。平戸では葉山佐内のもとで海外情



吉田松陰(萩博物館蔵)

勢や洋式大砲について熱心に学んでいる。具体的には、アヘン戦争に関する『聖武記附録』や『阿芙蓉彙聞』、フランスの砲術書『百幾撒私』など、海防の強化や大砲の洋式化にかかわる書物を熟読・筆写した。

ついで嘉永4年(1851)江戸に遊学し、佐久間象山の影響を受けてオランダ語の習得を開始する。さらに同年暮れ、北日本沿海のロシア船対策を実地に踏査するため東北遊歴に出かけるが、この時、藩から過所(関所手形)が発行されるのを待たずに江戸を離れた。そのため嘉永5年、松陰は士籍剥奪・家禄没収の処分を受け、浪人となった。

その後、松陰は藩から10力年の諸国修業を許され、再度江戸へ出た。嘉永6年(1853)ペリーが浦賀に来航した際には現地へ赴き、蒸気軍艦を眼前にしてさらに西洋の文物への関心を強める。安政元年(1854)1月にペリーが再来すると、松陰は3月、ペリーに対して「五大州を周遊せんと欲す」との書を送り、伊豆半島の下

田沖において黒船に乗船するも密航に失敗した。松陰は萩へ送り返され、野山獄を経て実家杉家に幽閉された。

松陰は安政3年(1856)3月、杉家の幽囚室において、近所に住む高洲滝之允らへの講義を始めた。つまり杉家において、事実上、松陰の松下村塾が始まったのである。

安政4年(1857)11月5日、松陰は八畳一室の塾舎を得た。これは、杉家の宅地内にあつた小舎を改修したものである。その後、塾舎が手狭になったため、安政5年3月、門人らの共同作業により10畳半の部屋を増築した。この頃が松下村塾の最盛期にあたり、7月、長州藩は松陰の家学教授を公認した。

門人は、92人の存在が確認されている。その大半は、10代後半から20代前半までの青少年で、松陰は、武士・町人・農民の身分の別を問わず、学習意欲のあるものなら誰にでも入塾を許した。彼は特に時事問題を重視し、単に書物の意味や解釈を教えるだけでなく、現実の諸問題と関連つけて講義した。

安政5年6月、幕府が朝廷に無断で日米修好通商条約を結んだ。松陰はこの無断許調印を契機として、幕府政治への批判を開始する。そのため12月、長州藩は松陰を再

び野山獄に投じ、松下村塾は閉鎖された。松陰が塾を主宰した期間は、わずかに約2年10カ月である。

その後、松陰の幕政批判は過激さを増し、安政6年(1859)5月、安政の大獄を開始していた幕府の命令によって江戸に呼び出され、10月、江戸の獄舎で処刑された。

松下村塾は、松陰の義弟楳取素彦、同じく義弟久坂玄瑞、松陰の実兄杉民治ら、おもに松陰の近親者により断続的に継承され、明治25年(1892)頃に閉鎖された。松下村塾の塾舎は明治23年(1890)に保存修理が行われた。その際、吉田松陰を祀る土蔵造りの小祠が建てられた。さらに、伊藤博文や野村靖らの運動により、明治40年(1907)に松陰神社が県社として建立された。

工学教育の先駆者松陰

江戸時代、日本人が諸外国と通交することは国禁であった。徳川幕府は寛永12年(1635)、「鎖国」政策の一環として、日本人の海外渡航および日本人の国外からの帰国を全面的に禁止したのである。そうした厳しい制約のもと、非公式に海外への渡航を試みた先駆者の一人が吉田松陰である。彼が密航失敗後に主宰した松下村塾は、日本の工業化に必要な理念や政治思想を育んだ重要な教場の一

つとなった。

松陰の思想が、工業化への貢献という観点から注目されるのは、工学教育論である。それは、松陰が安政5年(1858)6、7月頃に著した「学校を論ず、付けたり作場」という論文に端的に示されている。松陰は、人材養成を国勢振興の根本にすえること、身分の高低や学問の深淺にとらわれず機会均等に学生を学校に入れることの必要性を述べ、実技を重視した教育の重要性を説いた。要するに松陰は、理論を教える学校に、実技を教える作業場を併設すべきだと訴えたのである。さらには、彼が軽度な手工業の域を脱し、職人の英知を結集すれば軍艦や機械の製造も可能になると主張するなど、すでに重工業の段階まで視野に入れていたことは注目に値する。松陰は、現在でいうところの工業学校を設置し、工業基盤を整備・強化することこそが、欧米列強に對峙するうえで不可欠だと考えていたのである。

このように松陰は、欧米列強の植民地政策に對抗するために、欧米の技術力の背景を探る必要があることをいち早く認識した類稀な知識人の一人であった。特に鎖国という条件下では、直接西洋から知識・技術を移入することは困難であったため、彼は在来の技術者を結集することで産業化を実現し

ようとした。つまり松陰は、身分を問わず学生を集め、工学の教育施設を開設し、理論と実技の両方を学ばせるべきだと説いたのである。

明治の工業化と「長州ファイブ」たち

松陰が果たせなかつた欧米留学や工学教育の志は、松下村塾門人の伊藤博文を含む5人の長州藩密航留学生「長州ファイブ」により具現化された。

伊藤は、井上馨・山尾庸三・井上勝・遠藤謙助とともに、文久3年(1863)に国禁を破ってイギリスへ渡り、産業革命の実態を学んだ。その後、明治政府において、伊藤が設立の中心になった工部省は、鉱山・製鉄・灯台・鉄道・電信などの工業化政策を推進した。また山尾は、工学教育の必要を認識して、工学寮、ついで工部大学校(現東京大学工学部)の設立に尽力し、人材養成に努めた。このようにして、彼らが軍事力の強化だけでなく、産業の総合的な近代化に取り組んだ結果、日本は世界有数の工業国家へと生まれ変わった。つまり「長州ファイブ」は、欧米に対する強烈な危機感のもと、日本の対外的独立、国家的発展に大きく貢献したのである。

なお「長州ファイブ」には、松下村塾の門人は伊藤博文1人しか

含まれていないが、日本の工業化に尽力した門人は他にもいる。その例として、長崎造船局長の渡辺蕃蔵、東京職工学校(現東京工業大学)初代校長の正木退蔵、鉄道技術者の飯田俊徳があげられる。なかでも渡辺は、イギリスに留学して造船学を修め、工部省の長崎製作所を管轄し、明治16年、長崎造船局の発足により局長となった。このように渡辺は、留学先で専門知識や技術を身につけて帰国した

造船技師の草分けであるが、彼は晩年、吉田松陰から「今後の日本は大いに造船、造艦」が必要と助言されたため、その道に進んだと証言している。こうした事実は、一般にはまだあまり浸透していない。今後は、工業化への貢献という観点から、引き続き松下村塾に関する史料の掘り起こしと研究を進め、さらなる情報発信を続けていく必要があると考えている。

薩長同盟 萩市と鹿児島市が 150年 友好交流の盟約締結

1866年(慶長2)1月21日、幕末の激動の中、時には敵対した萩(長州)藩と薩摩藩が日本の未来のために大同団結した「薩長同盟」を締結して、今年には150年の節目となります。

これを契機として、今後の萩市・鹿児島市の友好交流の発展を図るため、1月21日に友好交流に関する盟約の調印を行います。

両藩は、「長州ファイブ」と「薩摩スチューデント」といった藩の若者をイギリスに留学させるなど、日本の近代化に向け、海外の産業や工業をいち早く取り入れるために行動。この取り組みが、日本の近代化の礎となり、「19世紀末の世界史の奇跡」といわれる、欧米以外で最初の工

業化を果たし、これらの歴史的経緯もあり、平成27年7月には、両市の構成資産を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録されました。

記念ロゴマーク

萩市が薩長同盟に関連した記念行事などで使用するロゴマーク。木戸孝允(右)と西郷隆盛が日の出に向き合っており、日本への未来のために両藩が協力することを決断した状況を、締結に

携わった多くの人々のエネルギー(情熱)の赤色でデザイン。



よしず なおき
吉津直樹さん

(下関市在住、萩高昭和40年卒、69歳)



11月に開催した下関市立大学シンポジウム後の懇親会(右側中央が吉津さん、右隣は安倍昭恵さん)

なぜ地理学か

私は地理学の大学教員を30歳からこの方長らくやってきたが、なぜ地理学なのか、なぜ大学教員なのか、振り返ってみるとまさに偶然である。

私に最初に将来のきっかけを与えてくれたのは小学校2年から3年の時に出会ったある青年である。私が幼稚園児のころ父親が亡くなったことから生活ができなくなり叔の母親の実家に帰っていた。私は明倫小学校に通ったが、学校はサボルは悪さはするほど問題児

だった。女の子の髪の毛をはさみでばっさり切ったこともある。通知表に「あまりにもひどい」と書かれていた。その家に鹿児島から出てきたKさんという書生がいた。Kさんは20代の元気がいい好青年で小学校の代用教員をしていた。家族同様の付き合いで、よく遊んでくれた。そのKさんがあるとき、私に地図を持ってきて「小樽がどこにあるか探してみないか。見つけたら飴玉をあげるよ」と誘いかけてきた。食べるものがろくにない当時の飴玉が魅力的だったのでその誘いに飛びついた。地図帳をめくりながら夢中になって探した。南の鹿児島県の方から探し始めたのでなかなか見つからなかったが北海道にきてやっと見つかることができた。見つけたときのうれしさは大変なものだった。褒美の飴玉をもらって、Kさんに「どこか地名を言ってみてまた探そう」と催促した。それを繰り返すうちにやたら地名を覚えるようになった。そして地図を見るのが大好きになり、毎日漫画を見るかのごとく地図ばかり見ていた。枕元に20×30cmも地図帳を積み重ねて每晚眺めていた。

養子になり、変貌

その後私は小学校3年の1月に、中村家から吉津家に養子にいった。これが第一の転機である。母親の父の家は裕福であったが事業に失敗して苦境に陥り、私が養子に出されることになった。吉津家の両親は実に立派な人であった。父親は職業軍人で日頃は優しいけれども、怒ると1週間ぐらいいは口をきいてもらえないほど厳格であった。母親は実に優しい女性で、愛情で人を導くことができるということをも身をもって教えてくれた。生活は一変した。

自由な時間を求めて
大学教授に

転校した椿東小学校のクラスは素晴らしいクラスで、皆が私に親切にしてくれた。それまでは問題児の私だったが騒ぐに騒げず、いつのまにか優等生にならされた。養子にならなかつたらどうなっていたらう。叔父は私に「直樹君は養子に行つてスケールが小さくなつた」と言つたが、養子に行かなかつたら到底、大学教員の道を歩んだとは思えない。

父の大学の授業を受けているうち、高校の教員より大学の教員の方が自分の時間を多く持てることに気付いた。第三の転機である。大学の教員になるには大学院に行かなければならない。もともと勝負強い人間だったため、試験は何とかクリアしてきた。また、好きな地理学だったこともあり、大学院生活も楽しかった。生活を楽しむことを優先した結果、最短5年間の大学院に9年間も在籍した。

誰でもそうだと思うが、できるだけ自分の好きなことをやりながら経済的なものも確保されれば申し分ない。幸い私は好きな地理学でそれができたが、現代社会ではそういうかないことが多い。とすれば仕事は仕事とわりきつて余暇に自らの好きなことを行つということになるのだろうか。

「教員」には定年があるが「研究」には定年はない。またやり残した研究が山ほどある。これからやれるところまでやりたいと思つている。

プロフィール

1946年(昭和21)、萩市生まれ。65年、萩高校卒(第17期)後、名古屋大学文学部へ進学。同大学大学院、助手を経て、81年に下関市立大学専任講師。90年に教授。2012年に定年退職、名誉教授となり、13年4月から学長に就任。専門は経済地理学

レストランまつおかオーナーシェフ

松岡洋祐さん

(萩市在住、38歳)



レストランに転職し、フレンチの料理人としての経験を重ねていきま

Uターン後、レストラン開業

一方、家業である旅館と仕出し業は、両親が切り盛りをしていました。しかし、22歳の時、父が癌を患います。私自身も修業を始めて間もない頃でもありましたが、両親からも、家業のほうは従業員もいるので帰ってくる必要はないと言われたこともあり、京都での修業を続けることとなりましたが、28歳の時に闘病の末父が亡くなり、一週忌を目途にUターンすることとなりました。

帰郷後は家業に入り、仕出し弁当や旅館で提供する料理を作っていました。私の中では、いつか自分のレストランを開いてみたいという思いもありました。それは、子どもの頃、旅館や仕出しをしながら、昼時には、近所にある公民館の食堂も営業し、うどんや焼きそばなどを作っていた父の姿を見ていたからだと思っています。そして、旅館の老朽化が進んでいたことから、改築を機にレストランを併設

まれた地域です。魚は、知り合いの漁師さんから仕入れることもあり

りますし、野菜は、道の駅で購入したり、近所の方が持ってきてくれたりすることも少なくありません。また、肉類も周辺地域で肥育

された長州とりやむつみ豚、見蘭牛、長秋和牛などを使用しています。食材が豊富な地域だからこそ、地元の商品にこだわりたいですし、そつでなければ、この地でレストランをする意味はないと思っています。また、せつかく地元の食材を調理しているので、料理を盛り付ける器も萩焼を使用しています。

現在、ランチ、ディナー共に、2〜3種類のコースメニューを提供しており、フレンチでありながらも、和食テイストも取り入れているので、すべてお箸でお召し上がりいただけます。食材を少し変わった方法で調理してみたり、意外な食材同士を組み合わせたりする

など、これまでの経験を活かしながら、季節感のある料理を提供しています。

□□□□などにより、益田市や萩市内の方を中心に、多くのお客様にお越しいただいていますね。「ボリュームもあり、美味しい」と仰って

いただくことが多く、

時には、食通のお客様から、原価率の心配をされることもあるほどです。ですが、お客様の喜ぶ姿を見るのは、本当に嬉しく、やりがいにも繋がっています。料理人は天職だと感じていますね。

食を通して地域貢献を

最近、仕出し弁当業では、老人福祉施設への給食サービスを始めました。私たちにとっては新規事業となりますが、今後、高齢者向けの給食サービスの需要が高まれば、雇用にも繋がっていくかもしれません。若者が流出し、過疎が進む地域だからこそ、自分ができることを考えて行動していきたいですね。田舎にいなからでもできること、田舎だからこそできること、もあると思います。食を通して地域社会に貢献できたらいなと思っています。

京都のホテルなどで修行

萩市江崎の老舗旅館「小室屋旅館」の一角にあり、創作フレンチのレストランとして人気を集めている「レストランまつおか」。オーナーシェフの松岡洋祐さんにお話を伺いました。

曾祖父の代から続く旅館の長男として生まれた私は、地元の小中学校を経て、島根県立益田高校を卒業しました。その後、家業の一つである仕出しの手伝いなどをしていましたが、本格的に料理の修業をするため、20歳の時、京都の

ホテルに就職します。ここでは、ホテル内のカフェレストランやフレンチ、鉄板焼、宴会場などで提供される料理すべてをメイン厨房で調理するシステムとなっており、5年半ほどの間、洋食を中心に料理の基礎を学びました。

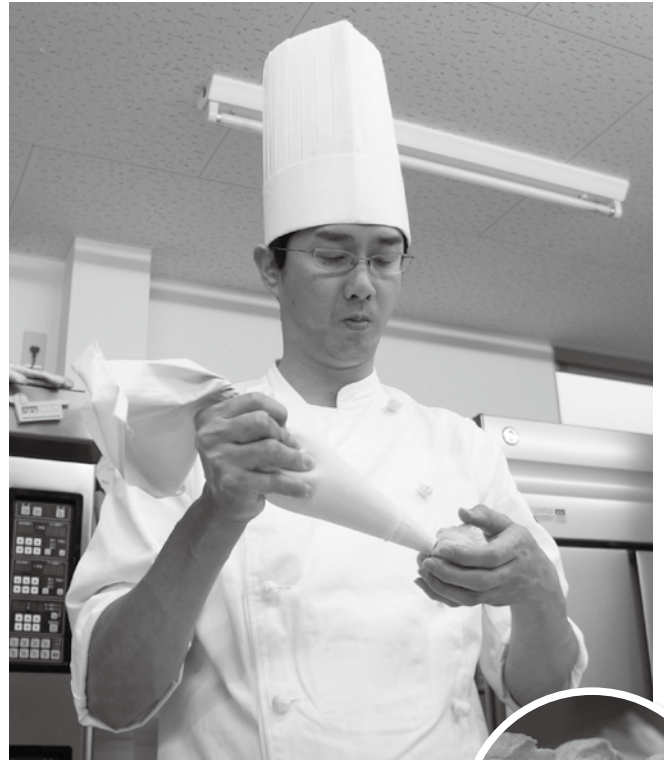
そして、更なるステップアップの場を求めて、自分が美味しいと思うところで働きたいと思い、様々な店を食へ歩いたところ、町家を改装した創作フレンチの店や系列店で1年ほど勤務。26歳の時には、同じく町家を改装した創作フレンチの店などを展開する別の

地元産にこだわる

江崎は、地元の新鮮な食材に恵



■レストランまつおか
住所/萩市大字江崎 1101
営業時間/午前 11 時～午後 3 時 (ラストオーダー午後 2 時)、午後 5 時～10 時 30 分 (ラストオーダー午後 8 時、ディナーは前日までの予約)
定休日/月曜日
☎08387・2・1801



Sweets うきしま工房

店長兼パティシエ

古川毅さん (44歳)

伝説の「生シュー」

3年前、惜しまれながら閉店した老舗菓子店「神戸屋」。その神戸屋のケーキ職人であり、人気商品だった生シューを作り上げた父の味を受け継ぎ、昨年5月にオープンしたシュークリーム専門店「うきしま工房」の店長でパティシエの古川毅さんにお話を伺いました。

父が作り上げた「生シュー」

長年、皆様から愛していただいた神戸屋は、昭和11年に祖父が創業しました。パン屋から始まった店は、次第に和洋菓子の製造販売や、喫茶、レストランなども経営するようになり、昭和のうちは萩市内を中心にいくつもの支店を持ち、従業員も100名を超えて

いたよつです。私の父は、東京の老舗洋菓子店「モンブラン」で修業を積み、ケーキ職人として家業を盛り立てました。中でも、人気商品だった「生シュー」は、昭和40年代の初頭、当時は珍しかった生クリームをカスタードクリームに混ぜ合わせ、その配分に試行錯誤を重ねながら父が作り上げたものです。濃厚な卵と牛乳の風味がありながらも、後味がさっぱりとした生シューは、長年、多くの人達から愛される神戸屋の看板商品となりました。

10年の修行を経て、家業へ

私自身は、萩高校を経て、関東の大学を卒業後、かつて父が創業した洋菓子店で、4年間、パティ

シエとしての基礎を学びました。その後、横浜の大手製菓会社に入社。業務用ケーキの製造現場で、主に品質・衛生管理などに携わりました。そして、30歳の頃、横浜にある個人経営の洋菓子店へ転職。流行を取り入れながらも、素材にこだわった

ケーキ作りについて学ぶことができました。パティシエとしての経験を積む中、家業の神戸屋では、28歳の時に父が急死。社長である伯父からも帰郷するよう言われていました。しかし、人口減少が進む故郷で家業を盛り立てていく難しさも感じていることから、32歳の時、事業を縮小するタイミングを機に帰郷。東田町の本店と、集客が望めるスーパーの一角に構えた支店の2店舗に集約し、洋菓子の製造販売や店舗運営を行いました。ですが、41歳の時に神戸屋が倒産。家業を置くこととなりました。

「伝説の生シュー」を復活

倒産後、いずれは自分で洋菓子

店を構えたいと準備を進めていたところ、岸田商会の大中隆義社長からお声かけをいただきました。大社長自身も、神戸屋の生シューのファンであり、新規事業として菓子店を作りたいとのことでした。私自身、独立にあたって、種類は少なくても何かに特化した店を作りたいと思っていたところ、大社長も私の想いに賛同くださったことから、3年前、岸田商会に入社。開店準備を進め、昨年5月、父が遺してくれた生シューを「伝説の生シュー」として復活させ、シュークリームをメインにした洋菓子店「うきしま工房」をオープンすることができました。

父の味を守り続ける

「伝説の生シュー」は、幼い頃から食べ続けてきた父の味をそのまま受け継いでいます。オープン時大きく宣伝をしたわけではないのですが、口コミなどにより、懐かしいの味を求めて多くのお客様にお越しいただきました。

また、生シュー以外にも、チョコやラズベリー、抹茶、そして、岸田商会のゆず果汁を使用したゆず味のシュークリームも販売。これらは、何度も試作を重ねた商品で、素材

を活かしながら、丁寧にクリームを作り上げており、そのカラフルな色味もお楽しみいただけるようにしています。この他にも、エクレアやチーズケーキ、ブリュレなども製造販売しています。最近では、新商品の開発にも力を入れており、シュークリーム専門店ならではのロールケーキを販売する予定です。神戸屋時代の懐かしの商品も復活させていけたらと思っています。

修業時代に父が亡くなり、一緒に仕事をするのは叶いませんでしたが、父が遺してくれた生シューを、今こうして作ることができ、お客様に喜んでいただけたことは本当に嬉しい限りです。だからこそ、その味には抜けないと思っっています。今後は、父の味を守り続けながら、素材そのものを活かすシンプルなものづくりを目指していきたいと思っています。



■ Sweets うきしま工房
住所/萩市土原 609-1
営業時間/午前 10 時 30 分~午後 7 時 (なくなり次第、閉店)
定休日/水曜日 (祝日営業、翌日休み)
☎ 0838・22・0545

餅まき好きの集大成？

須佐で3万6000個の餅が宙を舞う！

県外の地域でお住まいの方の中には、最近ではあまり餅まきを見なくなったという方も多いのではないのでしょうか。新居の上棟式などで棟からまかれる餅まきも、最近では少なくなってきたように思いますが、萩をはじめとする山口県内では、上棟式や落成式だけでなく、祭りやイベントなどでは餅まきも今も盛んに行われています。

紅白の餅が入った袋を壇上からまくと、参加者はビニール袋を手にとり、飛んでくる餅を捕まえたり、取り損ねたものを拾い集めたりして、誰もが年齢も忘れて盛り上がりまします。



須佐地域ふるさとまつりの餅まき

とまつり」でも、来場者が開会式の始まる前から徐々に集まり始め、餅まき開始直前にはビニール袋を持った子どもからお年寄りまでが我先にとよいポジション取りを指してステージ近くまで押し寄せました。

山口市阿東地区では、「餅ひろい世界選手権」も行われるなど、県内では餅まきとイベントは切っても切り離せないものとなっています。

しかし、自分たちで作った餅をまくというのは、イベントへの集客という意味だけでなく、来てくれた人へのおもてなしや、頑張っていたことという意気の現れの意味もあるのではないのでしょうか。

日本最大級の餅まき 須佐地域ふるさとまつり

昨年11月3日、須佐で開催された「須佐地域ふるさとまつり」締めくくりにはやはり「餅まき」は欠かすことができません。しかも、その規模は他の地域には負けません。

このまつりは、隔年で開催しますが、平成25年は豪雨災害で中止のため2年連続の開催。昨年より5集落多い33集落、約400人が集落ごとに、3万6000個（昨年は3万個）の餅を、40分もの間

2カ所のステージからまかれまして。1200人の参加者は、「こっちにまいて」など、勢よく餅がまかれるたびに大きな歓声をあげ、手を伸ばしながら宙を舞う餅をキャッチ。いっぱいになった袋を手し、みんな笑顔で会場を後にしました。

この餅まきは、旧須佐町時代から続く、収穫の感謝と喜びを分かち合ったための行事で、開催日の数日前から、集落で収穫したもち米でついた餅を持ち寄って行います。自分たちが収穫し、自らの手で餅にしたものを、集落ごとに使用する餅まきとしては日本最大規模ではないかと事務局。

餅は買うものではなく、餅まきで手に入れるものと思われているかのように、袋を両手に抱えている方も多くみられますが、聞くところによると配られることでも「コミュニティの一体感をここでも感じることが出来ます。」

事務局によると、豪雨災害の復興祈願も込められ、災害以前より参加集落や餅の数が増えているとのことでした。この日本有数の「餅まき」のパワーに負けないように、一日も早い、地域の復旧・復興が願われます。

次回はぜひ参加して、須佐地域のエネルギーを感じませんか。

ご存知ですか？萩の親孝行の兄弟の伝説 「香川津二孝子」没後200年

萩に200年前から伝わる「香川津二孝子」。萩の香川津に住んでいた、2人の親孝行な兄弟の伝説です。これは、今から200年前、萩城下の小畑村香川津に住んでいた、長七という六尺（かごかき人足）の息子の、兄の権蔵と弟の利吉という兄弟の物語です。

1815年（文化12）、母親が末の妹を出産した後に体調を崩し、病床に伏すようになります。母親に尽くしていた兄弟は、金比羅社（現在の田政寺境内：南古萩町）のご利益が大きいと聞き、約3キロの道のりを、母親の回復を祈り、毎日走って百度参りをしました。

しかし、満願の日である12月11日、7日の断食で力が衰えていたうえに風雪のために、参拝の帰路、松本川の川岸でついに力つき、絶命しました。

翌年、話を聞いた当時の藩主10代毛利斉熙は感動し、明倫館学頭の山県太華に命じ、香川津の医徳寺（現存しない）の境内に2人の顕彰碑「紀二孝子事」を建立しました。

■百年祭でマラソン競技を実施 1914年（大正3）12月11日、椿東青年会が百年祭を催したとき、新川に石碑を移建し、併せて「移孝子碑記」を新たに建立。記念行事としてマラソン競技が実施されたということです。兄弟の百度参りが、現在開催されている萩城下町マラソンに続いているといえるのではないのでしょうか。

その後、1938年（昭和13）には、兄弟が絶命したとされるJR東萩駅近くの松本川そばに「香川津二孝子絶命之処」を建立、ほかの2石碑も移し、現在に至っています。

そして平成27年12月12日、4基目の石碑「香川津二孝子二百年祭」の石碑が、兄弟を顕彰している地元の実行委員会により建立。当日は、現地で記念式典が開催され、除幕式などが行われました。

兄弟の物語は、親孝行や兄弟愛について、いま一度考えようとする良い機会になるのではないのでしょうか。



萩サテライトオフィス プロジェクト始動 明木地区で実証実験

テレビ電話で他のオフィスと打ち合わせ



萩市では、市内の情報通信環境を活用した「サテライトオフィス実証実験」により、萩市のサテライトオフィスでも企業活動が可能であり、むしろ自然が豊富で歴史と文化など地域資源に富んだ萩市特有の環境が仕事の効率を向上させ、よりよい成果につながることを全国に広くPRし、サテライトオフィス、さらには本社を含めた企業誘致に新たに取り組んでいます。

実証実験は、10月26日～11月13日、東京に本社のある(株)ダンクソフトが、明木地区にある空家で実際にサテライトオフィスを開設し、延べ14人の社員が明木で仕事をしました。

今後は、実証実験のレポートやプロモーションサイトを制作し、PRを行っていくことで、サテライトオフィスの誘致を実現し、萩市の雇用創出につなげることが期待されています。

▽サテライトオフィスとは

企業や団体の本拠から離れた所に設置されたオフィス。本拠を中心とすると、衛星（サテライト）のように存在するオフィスとの意から命名。

■問い合わせ

萩市商工振興課（0838・25・3811）



ケーキを作る深野さん

今回から、平成27年秋に着任した「萩市地域おこし協力隊」第1期の8人が、萩・須佐・福栄で活動に励む様子をお伝えします。

ほんのり甘く、ふわふわ 赤米シフォンケーキを開発

萩市地域おこし協力隊「初」となる開発品が完成。須佐地域で活躍する深野和範隊員が、特産の赤米を使ったシフォンケーキを作り、昨年11月22日の「赤米フェスタ」の試食会でお披露目。160食分があつという間になくなる、うれしいデビューとなりました。



赤米シフォンケーキ

店長を任された経験を生かし、さっそくシフォンケーキの試作に取り掛かりました。プロの技を駆使し、しっとりふわふわな食感。「ほんのり甘い赤米はポリフェノールを含み、抗酸化や脂肪燃焼効果も期待されます」と、研究熱心な深野隊員。将来的に販売を目指すため、日持ちや流通性、さらに原価計算まで、きちんと考慮。

協議会会員でもある女性グループ「はなみずき」代表・大谷始津恵さんは、「私たちだけではできなかった。ぜひ製品化へつなげていきたい。赤米100%の粉を使っているため、小麦粉アレルギーの子にも食べてもらえる」と喜んでいきます。

■問い合わせ

萩市企画政策課（08388・253342）、赤米シフォンケーキについては須佐総合事務所産業振興部門（08387・6・2219）

▽萩市地域おこし協力隊フェイスブック <https://www.facebook.com/hagiokoshikyokuyokutai/>

須佐を、イカで輝く元気なまちに！



一木清久船団長

須佐地区一本釣船団、16年の取り組みが 内閣総理大臣賞受賞の名譽に輝く！

漁業を主幹産業に栄えてきた須佐地域では、一本釣船団水揚げ量の6割を占めるケンサキイカを誇りに地元が一致団結。16年間の取り組みがまちの活力を生み出していることから、「平成27年度豊かなむらづくり全国表彰」で、内閣総理大臣賞に輝きました。

水産資源の減少や高齢化に面し、須佐でも衰退の懸念が漂い始めた頃、魚価向上を巻き返しの一

手として、平成11年に「イカ祭り」を初開催。商工会や農協など異分野からも協力を得て、須佐ケンサキイカの躍進が始まったのです。

活イカは、一本釣りだからこそ揚げられる貴重なもの。生きたままの身は透き通り、上品な甘みや歯ざわり良い食感に特別です。直売市や業者間でも高く評価され、平成18年に「須佐男命いか」として商標登録。その鮮度を味わう場所をと、地元飲食店や旅館が須佐男命いかを提供する認定店として動き出し、今や山口市や下関市、益田市などにも広がっています。

▽ご当地バーガーが大ヒット

萩市須佐総合事務所産業振興部門（08387・6・2219）



みことバーガー

そのような中、ご当地バーガー「みことバーガー」と「みことドッグ」が誕生しました。すり身だけでなく角切りも入ったイカフライがぜいたくで、手作りのため数は限

定。売り切れ続出なので、販売場所の「ふれあいステーション須佐」(08387・6・3380、12月30日～1月3日は休み)へ予約がおすすめです。

一木清久船団長は、「漁家の収入向上や遊覧船運航、食の展開や教育にも連携が広がり、地域みんなの受賞。豪雨災害後の復興力にもなった。ぜひイカを食べへておいでーや」と話しています。

■問い合わせ

萩市須佐総合事務所産業振興部門（08387・6・2219）

萩市地域おこし協力隊「シラム 末広がり」の奮闘記 1

今回から、平成27年秋に着任した「萩市地域おこし協力隊」第1期の8人が、萩・須佐・福栄で活動に励む様子をお伝えします。

萩市地域おこし協力隊「初」となる開発品が完成。須佐地域で活躍する深野和範隊員が、特産の赤米を使ったシフォンケーキを作り、昨年11月22日の「赤米フェスタ」の試食会でお披露目。160食分があつという間になくなる、うれしいデビューとなりました。

ほんのり甘く、ふわふわ 赤米シフォンケーキを開発

協議会会員でもある女性グループ「はなみずき」代表・大谷始津恵さんは、「私たちだけではできなかった。ぜひ製品化へつなげていきたい。赤米100%の粉を使っているため、小麦粉アレルギーの子にも食べてもらえる」と喜んでいきます。

■問い合わせ

萩市企画政策課（08388・253342）、赤米シフォンケーキについては須佐総合事務所産業振興部門（08387・6・2219）

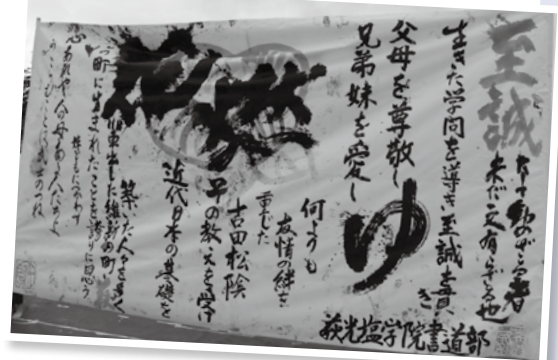
▽萩市地域おこし協力隊フェイスブック <https://www.facebook.com/hagiokoshikyokuyokutai/>

松陰の志を伝える書道パフォーマンスを披露

市内のイベントなどで、多くの迫力ある書道パフォーマンスを行っている萩光塩学院高校書道部が、11月15日に岡山市で開催された「第1回イオンモールカップ高等学校書道パフォーマンス」に出演し、見事な演技を披露しました。

前日の14日には、昨年に続き「萩ふるさとまつり」に参加。披露直前に小雨が降り始めたにも関わら

ず、着物にタスキがけ姿の生徒は、音楽にあわせてダイナミックに筆を走らせます。大河ドラマ「花燃ゆ」をテーマに、松陰の言葉などを書き上げ、最後に作品を観客に披露すると、会場から大きな拍手が湧きました。



萩ふるさとまつりでのパフォーマンス

阿武川ダム完成40周年 ふるさと里帰り懇談会

懐かしいふるさととの風景に再会

昭和50年3月に阿武川ダムが完成して40年。阿武川は、度重なる氾濫により下流域に大きな被害をもたらしていました。ダムの完成により洪水などの被害はなくなりました。

ダム建設に伴い昭和45年前後から、川上村の6集落（高瀬、藤蔵、大藤、一ノ谷、出合、木津原）と福栄村の3集落（清宗、飯館、佐々連）の、204戸約900人の住民が移転に協力、ふるさとを離れられました。

40年の節目の年、現在の安心な暮らしが営まれるようになったことを後世に長く継承するため、写真展や講演会などの記念事業を開催しました。

108人がふるさとに里帰り

平成27年11月7日、川上公民館で「ふるさと里帰り懇談会」を開催。川上と福栄地域の元住民の方108人を含む129人が参加しました。ふるさとを離れて約45年振りに帰郷された方など、遠くは千葉県や静岡県からの参加もありました。

冒頭、阿武川ダム完成40周年記念事業実行委員会の金子栄一会長が「ふるさとを去られた皆さんの協力によって、下流の住民が安心して暮らせるようになったことを語り継いでいきたい」とあいさつ。懇談会では、アユの塩焼きや甘露煮などの郷土料理もおもてなし。川上の地酒「長門峡」を竹で

燗をしたカッポ酒も振る舞われ、懐かしいふるさとへの味に舌鼓を打ちながら、皆さん再会を喜ばれていました。また、地元の人たちが手作りしたお土産の「よもぎ餅」も大好評だったとのこと。

会場では、阿武川ダム建設の記録映像の上映や、ダム建設前の様子を写した写真も展示され、参加者は熱心に見入っていました。

閉会後に同級生で同窓会を開かれた方もあり、いつまでも名残惜しく、多くの方がまたの再会を楽しみにしておられました。

阿武川ダム

全国にも例の少ない重力アーチ式コンクリートダムで、総貯水量は1億5350万t。県内では最大規模、県営ダムとしては全国でも有数の規模。



復興だより

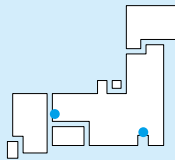
須佐歴史民俗資料館「益田館」が再開館

平成25年7月28日の萩市東部集中豪雨災害で被災した、須佐歴史民俗資料館は、昨年4月の本館がリニューアル開館に続き、別館「益田館」が改修工事を終え、11月20日に再開館しました。益田館は、萩藩永代家老益田家の旧宅。集中豪雨では、約2.5mまで水没、建物や650点の資料が被害を受けました。

開館式の後、益田家が創設した郷校「育英館」の授業風景を再現した育英塾を実施。育英小と弥富小の6年16人が着物姿で講義に参加し、須佐地域の歴史や育英館での授業内容などを学びました。



今回で23回目の育英塾で須佐地域の歴史などを学習



東京指月会

10月24日

日本工業倶楽部(東京千代田区)



第48回の開催に約200人が出席。会長の陽捷行さん(昭和37年卒)が、「萩高开校145周年、東京指月会も第48回を数え、喜びとともに多くの方々に感謝。明治日本の産業革命遺産の23資産のうち5つが萩。萩の人・物・時間・空間のすべてが遺産であり、このようなふるさとをもつ我々は幸運という恩恵を受けている。松陰先生は『學校を論ず 附作場』の中で人と科学と実学の統合を謳っており、その想いが蘇った」とあいさつ。萩からは、指月会の村田会長、4月に赴任された西村校長、そして野村萩市長が駆けつけ、祝辞とともに現在の萩高の様子や萩市の取り組みなどが紹介されました。

懇親会は、河村衆議院議員の乾杯の音頭で始まり、会場のあちこちで再会の喜びの声が聞かれる中、恒例の卒後70、60、50、40年の方々の卒業表彰や萩の賞品が当たる福引抽選会などで大いに盛り上がりました。

次回は、4年に一度の萩商工、萩光塩と合同で10月22日(土)の開催が予定されています。

つばき会下関支部・九州支部、巴城会

11月7日

南風泊市場 活魚センター(下関市)



つばき会九州支部の参加による下関での合同開催に59人が出席。つばき会下関支部の野村副支部長(43年商業卒)が「松村支部長が出張のため欠席だが、九州支部との合同で盛大に。フグを堪能してほしい」、つばき会九州支部の上村支部長(43年商業卒)が「合同開催により地元の先輩や同級生に会えた。来年は九州で指月会・萩光塩との合同開催を計画しており、人の輪を広げたい」、巴城会の藤田会長(41年萩高卒)が「かつては120~130人いたが、今回は14人、うち4人は初参加。指月会にはお世話になるが今後ともよろしく」と、各代表者があいさつ。また、ともに4月に赴任された末廣萩商工高校長と西村萩高校長からは、各校の現状報告があり、「両校で萩を盛り上げていきたい」とあいさつ。

懇親会では、トラフグ三味のフルコースに舌鼓を打ちながら旧交を温め、最後に、萩商業、萩工業、萩高の校歌を合唱して散会となりました。

会員投稿

10月15、16日 熱海・伊豆下田(静岡県)

萩高昭和33年卒10期同期会



「萩高10期同期会」は、「今年は、関東で」と計画を始め、折しも話題の大河ドラマ「花燃ゆ」に因み「松陰先生ゆかりの地、下田を訪ねる」バス旅行の会として10月15・16日、熱海・下田で開催しました。

初日は、熱海で懇親会。翌日は、伊豆半島の海を左手に眺めつつ、下田に到着。松陰先生「踏海の朝」像の弁天島→玉泉寺→了仙寺と市内名所を訪問の後、帰路へ。今回の会を計

会員投稿

10月8日 東京ガーデンパレス(東京)

萩高昭和34年卒11期同期会



全国から38名が参集し、大変盛り上がりました。翌日は「東京湾クルーズ」で昼食をしながら、快晴の東京の景観を楽しみました。
第11期東京同窓会 幹事 玉井知正

画中に萩が世界遺産に登録されたこともあり、途中、津田和夫さん提案の「反射炉繋がりて蕪山反射炉訪問」も実行。こうして関東・萩・大阪からの28名は、勉強に、見学にと盛り沢山の2日間を無事、終了。三島で解散となりました。皆様、お疲れ様でした。
山口雄三(神奈川県)

萩商工高校商業科昭和38年卒 東京地区同期会 関東三八会



関東三八会も今年で20回目となりました。今回は文京区目白台にある旧熊本藩主細川家の運営する永青文庫美術館で、浮世絵の春画展と、すぐ向い側にある丹下健三設計の斬新な教会、東京カテドラル聖マリア大聖堂を見学して、山縣有朋公の元私邸だったホテル椿山荘の庭園を散策しました。当日は連休ということもあり、教会も椿山荘も結婚式で賑わっていて、71才の私達も大いに若返った一日でした。坪井良子

東京須佐弥富会



約50人が出席。支部長の波田直登さん(41年工業卒)が「萩は、世界遺産、花燃ゆで盛り上がり、これからも観光振興に期待したい。本日は賑やかな企画も用意している、ゆっくり歓談を」とあいさつ。萩から参加した金子博巳つばき会本部副会長が「10月10日に統合して7回目となる本部総会を開催し約450人が参加」、末廣栄校長が「各支部に参加しているが、卒業生が皆、萩を愛し応援しており、例年より早く10月末には就職内定率100%となったのもその証し。明日はラグビーの決勝大会、朝一番で帰って応援に行く」と、同窓会や母校の様子を報告されました(ラグビー部は、11/15の県大会決勝で山口高を22対5で下し全国大会出場を果たしました)。

懇親会は、最高齢出席の井関敏男さん(85歳、24年商業卒)の乾杯の音頭で開宴し、恒例となった歌手の小川夏生さんの歌謡ショー、抽選会やジャンケン大会で盛り上がり、萩の物産の販売も行われました。

今回は、須佐から和田副市長をはじめ2人のお客様を迎え、総勢52人での開催となりました。また、毎回恒例の郷土史講演会は、須佐郷土史研究会の西村武正先生による「幕末須佐の志士たち」というお話をいただき、皆さん熱心に聞き入っていました。
東京須佐弥富会事務局 勝山義康

萩東中学校 全国中学校駅伝出場

萩東中学校男子駅伝部が11月14日に山口市で開催された山口県中学校駅伝大会(全国中学校駅伝大会山口県予選会)で、2年連続4回目の優勝を果たし、6年連続7回目の全国大会出場を決めました。

12月13日、山口県セミナーパーク・クロスカントリーコース(山口市)で、第23回全国中学校駅伝大会(6区間・18km)が開催されました。10年連続での山口開催も、今大会を最後に開催地を滋賀に移します。山口でのラストランは、31位の成績でした。

萩商工2年連続21回目の花園へ!!



11月15日、第95回全国高校ラグビー山口県予選会の決勝で、萩商工高校ラグビー部が山口高校(山口市)を22-5で破り、2年連続21回目の花園行きの切符を手に入れました。

全国大会1回戦は、12月28日(月)午後3時から、2010年の花園で敗れたことのある、岩手県代表の黒沢尻工高校と対戦。

敗れたことのある相手との対戦に、横山恒之^{つねゆき}主将(3年、萩東中卒)は「支えてきてくれた方に感謝の気持ちを忘れずに、自分たちの力を100%発揮し、絶対に勝ちたい」とリベンジを誓いました。

情報アラカルト

北海道地区

■企画展 秋博物館所蔵古写真展
「激動の幕末明治と長州の人々」
大河ドラマ「花燃ゆ」にちなんで「杉家の人々」、松下村塾の塾生たち、毛利家の面々など幕末から明治の激動期を彩った人物等の写真を展示。また、道迫真吾秋博物館主任学芸員の解説も掲示。
1月8日(金)～28日(木)
北海道上川郡東川町東町1・19・8 北海道東川町文化ギャラリー
(016668224700)

関東地区

■2016 一軸一碗展
兼田昌尚、三輪和彦の作品が展示されます。
1月12日(火)まで
東京都中央区日本橋室町1・4・1 日本橋三越本店美術特選画廊
(0332413311)
■大酒壺展2016年
三輪和彦の作品が展示されます。
1月15日(金)～26日(火)
東京都渋谷区渋谷1・16・14 しずや黒田陶苑
(0334993225)
■Turn and Return 反転と回帰
萩市出身の和紙アート活動を行う柳井嗣雄の作品が展示されます。

1月28日(木)まで、午前10時～午後5時30分(水曜日は午後8時まで)
1月1日(金)・祝、土・日曜日は休館
東京都港区赤坂7・3・38 カナダ大使館高田宮記念ギャラリー
(0354126257)

中部地区

■納富晋作陶展
3月23日(水)～29日(火)
東京都千代田区丸の内1・6・4丸の内オアゾショップ&レストラン154階 丸善丸の内本店
(03522888881)

関西地区

■秋焼水津和之陶展
2月10日(水)～16日(火)
愛知県名古屋市中区栄3・5・1名古屋栄三越7F美術サロン
(05225521111)
■元陽展大阪巡回展
西村不可止の作品を展示。
1月13日(水)～17日(日)
大阪府大阪市天王寺区茶臼山町1・82 大阪市立美術館(天王寺公園内)
(0667714874)
■萩・伊賀・岡田泰・谷本貴二人展
2月4日(木)～11日(木・祝)

大阪府大阪市中央区伏見町4・3・9 HK淀屋橋ガーデンアベニュー1F アトリエヒコ
(0662104644)

萩市関係

■佐藤典克のつづたち
山口県立萩美術館・浦上記念館 現在形の陶芸萩大賞展Ⅲ 大賞受賞者展「佐藤典克展」を記念し、佐藤典克(神奈川県)さんの小品展を開催します。
1月17日(日)まで、午前9時30分～午後6時
萩市呉服町1・3 彩陶庵
(0838253110)

九州地区

■萩岡田泰作陶展
3月15日(火)～21日(月・祝)
福岡県福岡市中央区天神2・1・1 福岡三越
(0927243111)
■縷々
金子司の作品が展示されます。
2月8日(月)～15日(月)
福岡県福岡市中央区天神2・1・1 福岡三越9F岩田屋三越美術画廊(0927243111)
■企画展 秋博物館所蔵古写真展
「激動の幕末明治と長州の人々」
大河ドラマ「花燃ゆ」にちなんで「杉家の人々」、松下村塾の塾生たち、毛利家の面々など幕末から明治の激動期を彩った人物等の

東京・浅草に 萩市のアンテナショップがオープン

東京・浅草で、地方の魅力を一挙に楽しめる商業施設「まるごとにつぼん」が12月17日にオープン。
2階には、萩商工会議所がアンテナショップ「萩の風」を開き、萩焼や竹製品といった萩ならではの商品を販売しています。
また3階の「おすすめふるさと」コーナーには、萩市をはじめとした全国20市町がブースを出展し、観光や物産のPRやふるさと納税、移住支援などの情報発信を行っています。
■販売商品 ▽萩焼(萩焼協同組合) ▽服部天龍 萩焼いとう、あらせ土産品店、昭雲堂、陶の杜、勝景庵、松雲山、小萩窯 ▽竹製家具・グッズ(TAKI Create Hag) ▽大漁旗グッズ(樺石川旗店) ▽椿オイル(株) 写真を展示。また、道迫真吾秋博物館主任学芸員の解説も掲示。
3月15日(火)～21日(月・祝)
鹿児島県鹿児島市城山町4・36 鹿児島市立美術館
(0992243400)



萩のアンテナショップ 萩の風

■萩焼水津和之陶展
3月2日(水)～8日(火)
福岡県福岡市中央区天神1・4・1 大丸福岡天神店本館6Fアートギャラリー
(0927128181)

テレビ・ラジオ情報

■四季・日本火の国の恵み

「さわやか自然百景新春特集」の中で、笠山のエビ池や風穴などが紹介されます。

1月1日(金・祝) 午前7時20分～8時28分、NHK総合

■「IPPIN」強くしなやかに美しく山口・萩の竹製品

板状の竹を何層にも重ね、独自の曲げ加工を施して作った「竹の家具」や、萩では江戸時代後期から作られてきたといわれる「和すだれ」などの竹製品とその製作に奮闘する職人が紹介されます。

1月5日(火) 午後7時30分～7時59分、BSプレミアム(再放送)

新規(再)加入会員

- 藤野甫さん (大阪府泉南市)
- 鎌田節子さん (愛知県名古屋市長)
- 杉山和宏さん (神奈川県横浜市長)
- 細井正樹さん (東京都中野区)
- 曾根直延さん (埼玉県川口市)
- 田村秀夫さん (東京都狛江市)
- 井上幸枝さん (萩市)
- 堀野正さん (大阪府河内長野市)
- 野村恒雄さん (下関市)
- 池田好博さん (福岡県糟屋郡)
- 原嘉昭さん (下関市)
- 藤木逸章さん (福岡県行橋市)
- 鈴木栄治さん (福岡県北九州市)
- 増山好彦さん (神奈川県大和市)

(10月27日～12月24日) 14人

1月11日(月) 午前6時30分～6時59分

■キッチンが走る!「城下町・萩で「フレンチジャポネ」の逸品を!

杉浦太陽さんと料理人が、日本全国の旬の食材を探し、その土地を代表する絶景の中で、生産者たちと料理を振舞う食と紀行の番組で、萩市の魚介や野菜が紹介されます。

1月15日(金) 午後8時～8時45分、再放送 1月16日(土) 午前10時5分～10時50分(いずれも関東甲信越エリアのみ放送)、2月9日(火) 午後3時15分～3時58分(全国放送)、NHK総合

■文化講演会

平成27年11月6日に「萩の英雄たちの選択」と題し、歴史学者の磯田道史さんを講師に迎え開催した萩市民大講義講座/上廣歴史・文化フォーラムのラジオ放送です。

1月31日(日) 午後9時～10時 NHKラジオ第2放送(再放送2月6日(土) 午前6時～7時)

※テレビ・ラジオ情報については、放送予定が変更になる場合があります。ご了承ください。

出版情報

■世界遺産年報2016

編者 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

冒頭の「明治日本の産業革命遺産」の特集で、萩の5つの遺産が

紹介されています。価格 1000円(税別)

発行所 講談社

■作品集「村上景介の世界」

昨年の春発行した、萩を描き続けた日本画家村上景介の初の作品集。限定販売で、残りわずかとなっています。

A4版 40ページ(フルカラー) 価格 2000円(税込)

※通信販売も可。

(問) 萩市文化・生涯学習課 (0838・255・3590)

■記念切手 明治維新150年記念シリーズIII



日本郵便中国支社では、明治維新から150年となる平成30年(2018)まで、毎年150年前のできごとを中心に記念切手を発売しています。第3弾は、慶応元年(1865)の萩藩の流れである「藩論統一」「武備恭順」や翌年の薩長同盟に向けての動きなどに関連したデザインです。

窓口での購入は萩市内の郵便局、山口県内の一部の郵便局(一部の簡易郵便局を除く)ですが、萩市観光協会でも通信販売されています。

■発売部数 1500部(予定)

■1シート 82円×10枚

■販売価格 1300円

■通信販売 送料込みで1660円、詳細は、萩市観光協会(0838・255・1750)

(問) 日本郵便中国支社 (082・224・5991)

①萩・世界遺産ヒジターセンター 学び舎のチケットをペアで3組

動画もその場で再生!

萩焼MAPを片手に窯元めぐりを楽しもう

400年以上もの伝統を誇る萩焼は、従来の茶器をはじめ、近年では花器やオブジェ、生活になじむ食器など作風も多様に広がっています。

「窯元巡りをしたい」「どんな作家がどんな作品を作っているか知りたい」「見学や体験はどこでできるの」という声に応え、萩青年会議所社会開発委員会がガイド冊子を昨年11月に作成。

市内36窯を地図上で分かりやすく紹介し、さらに新たな試みとして専用アプリで読み取ると動画が再生される機能もあります。

自らも萩焼作家である委員長岡田泰さん(晴雲山岡田窯)は、「動画サイトから、販売場所や作家の思いなどを掲載した



△「萩焼マップ」ウェブサイト http://hagijc.jp/hagiyaki_kamamoto/

ウエブページにリンクできるなど、身近で何度でも楽しめる内容にしました。萩焼を大和撫子に例えたプロモーション動画もぜひご覧ください」と太鼓判を押ししています。

▽配布場所 萩市役所、萩市観光協会、萩博物館、萩市内各道の駅等

■問い合わせ 萩青年会議所 (0838・255・3333)

イベントカレンダー

萩市観光協会

☎0838・25・1750

1月10日(日)～3月31日(木)

◇萩まちじゅう味めぐり・

萩温泉郷湯めぐりキャンペーン 市内各所

2月3日(水)～4月3日(日)

◇萩城下の古き雛たち

旧久保田家住宅ほか

2月13日(土)～3月27日(日)

◇萩・椿まつり

笠山椿群生林

3月6日(日) 10:00～

◇萩・しろ魚まつり

山口県漁協萩地方卸売市場、道の駅「萩しーまーと」

3月13日(日) 10:00～

◇萩の真ふぐ祭り

山口県漁協萩地方卸売市場、道の駅「萩しーまーと」

3月26日(土) 9:00～

◇萩往還ワンデーウオーク 2016



萩・椿まつり

笠山椿群生林では、約2万5,000本のヤブツバキが、色鮮やかに可憐な花を咲かせます。期間中の土・日曜日、祝日には、椿見どころ案内人によるガイドやステージイベントなどを開催



文と萩物語 花燃ゆ大河ドラマ館

いよいよ

1月10日(日)まで!



大河ドラマ「花燃ゆ」も最終回(全50話)を迎えました。ドラマを彩った美しい衣装や、大河ドラマ館でしか見ることのできない映像集、体験コーナーなど、充実した内容でドラマの世界観を存分に体験していただけます。いよいよ大河ドラマ館も1月10日までの開館となりました。ぜひ、萩に戻られた時には、大河ドラマ館で「花燃ゆ」の世界観を味わってみませんか。

■開館期間 1月10日(日)まで

■開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■入場料 大人500円、小・中学生200円、萩物語セット券(萩博物館、松陰神社宝物殿至誠館とのセット券)大人1,000円、小・中学生400円

■駐車場 (1回)普通車310円、大型バス1,030円

■問い合わせ 萩市大河ドラマ推進室(0838・25・3139)

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

☎0838・24・2400

シリーズ山東文物9 中華の服飾芸術

1月17日(日)まで

長い歴史の中で生まれ、王族や貴族の生活を彩った中華の服飾芸術。

山口県と友好協定を締結する山東省の山東博物館の収蔵品から、厳かな漢民族や清廉な女真族、さらにはこれらの民族の文化が混ざり合い生まれた明清時代の衣服や装飾品(髪飾り・靴など)といった、一級文物を含む多種多様な服飾作品を50点余り展示し、絢爛豪華な中華の服飾芸術の魅力を紹介します。

■観覧料 一般1,000円、70歳以上の方・学生800円、18歳以下無料

■休館日 1月1日(金・祝)



二級文物 闘牛袍
明時代 丈120cm
肩両袖通長213cm
山東博物館蔵

萩博物館だより

☎0838・25・6447

城下町・萩のひみつ ー迷宮へのいざない

4月7日(木)まで

世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の1つ、萩城下町。

城下町萩では、江戸時代の城下町絵図を、現在も地図として用いることができます。それは、江戸時代に形作られた「まち」が、大きく改変されずに継承されているということを示しています。

今回の展示では、「低湿地」「鉄道」「夏みかん」「災い」「誇り」「ダム」をキーワードに、変らない「まち」のひみつを追い、今に息づく城下町を再発見します。



▷観覧料 大人510円、高校・大学生310円、小・中学生100円 ▷休館日 なし(年末年始も開館)

◆ギャラリートーク&萩再発見ツアー

■とき 1月9日、2月13日、3月12日、4月2日(いずれも土曜日)午後2時～4時